

平和祈念事業アドバイザーボード（第7回）議事要旨

1 日 時：平成24年2月22日（水）14：00～16：00

2 場 所：新宿住友ビル スカイルーム（47階）

3 出席者：（委員）

- ◎ 亀井 昭宏（早稲田大学商学学術院教授）
- 杉浦 力（財団法人能率増進研究開発センター理事長）
- 黒沢 文貴（東京女子大学現代文化学部地域文化学科教授）
- 田久保忠衛（杏林大学名誉教授）
- 堀川 末子（弁護士）
- 水嶋 英治（常磐大学大学院教授）

[敬称略、◎は座長、○は座長代理]

（総務省）

- 田家 修 官房審議官
- 北原 久 特別基金事業推進室長

4 議事次第

（1）資料館視察

改修状況、企画展「抑留生活を支えた品々（ハンズオン展示）」他資料館視察

（2）「平成24年度平和祈念事業の実施について（案）」の説明

（3）「平成24年度平和祈念事業計画（案）」の説明

5 議事要旨

（1）資料館を視察し、改修状況、企画展及び運営状況等について説明が行われた。

（2）「平成24年度平和祈念事業の実施について（案）」の説明

資料に基づき、事務局から「平成24年度平和祈念事業の実施について（案）」について説明が行われた。

（3）「平成24年度平和祈念事業計画（案）」の説明

資料に基づき、24年度事業者から「平成24年度平和祈念事業計画（案）」について説明後、意見交換が行われた。

委員の主な発言等は以下のとおり。

- 館内企画展の実施にあたり、他館が所蔵する兵士、抑留、引揚げに関連する資料を借用・展示することで、多くのリピーターが期待できるのではないか。
- 常設展示については、どの資料の前で、どの程度滞留して鑑賞していたのか等入館者の館内行動の調査をすることにより、最も適切な展示方法を検証してもよいのではないか。
- 3問題をより多くの方々に理解してもらうために、他館との連携を続けるのはよい。それによって展示やフォーラムの内容を進化させればよいのではないか。
- 資料館のリピーター増に対応して、半年に一度ぐらい展示資料の一部を替えてはどうか。新しい情報を得られるような仕組みを将来的に考えてもよい。
- 3労苦に関係する他館と情報交換をできるような関係を作るとよいのではないか。
- 分かりやすい展示の一部として取り組んだ館内リニューアルについては、民間の高度なノウハウが感じられた。
- 労苦を伝えていくということを考えるならば、長期ビジョンを見据えて、全国的な規模で考えてもよいのではないか。
- 来館者アンケートに、他館の来館実績、展示比較、また希望する資料等の項目を盛り込んで（結果分析し）、今後の展示に活かすとよい。
- 他館との連携については、資料館の情報発信を行うよい機会であり、相互に紹介・案内すれば、他にも関連する施設があることを知るきっかけになるのではないか。

（ 本議事要旨は、総務省大臣官房総務課特別基金事業推進室において作成した速報版であり、今後、修正する場合がある。 ）